

昨年度実施の第4回“かさまつ いいね”写真展(主催:道徳のまち笠松)には、一般の部に46点、児童・生徒の部に45点の応募がありました。応募作品は、笠松の自然の素晴らしさや人の温かさといった笠松の良さが伝わるものばかりでしたが、その中から『いいね大賞』と『いいね賞』を、合わせて6点選びました。

一般の部

『いいね大賞』「花の絨毯をスイスイ」

小栗 敬彦さん

『いいね賞』 「成人式をかさまるくんもお祝い」

加藤 卓さん

「一糸乱れぬジャンプ」 中村 篤さん

児童・生徒の部

『いいね大賞』「石畳を歩く二人」 加藤 美柊さん

『いいね賞』 「青空のきれいな日に」 猿渡 愛理さん

「はちみつちょうだい」 松原 有椰さん

なお、5月15日から6月14日までは十六銀行笠松支店、6月25日から7月17日までは大垣共立銀行笠松支店で入賞作品や主な応募作品を展示します。

さて、今年度も“かさまつ いいね”写真展の実施を予定しています。10月からの作品募集となりますが、笠松の良さを収めた作品の準備をお願いします。



一般の部『いいね大賞』作品



児童・生徒の部『いいね大賞』作品

お馬さまのおとしもの①

「今日はおめえやつてみい。おれがくさみを持つとつたるで。」

馬糞の前にしやがみこんだ彦作は弟に馬糞を拾わせようと思った。

「いやや!。」

義吉は少しあまえた声で言った。「やらなんたらあとで川へ連れてつたらへんぞ。」

川と聞いて、義吉は「いややなあ。」と言いながらもしぶしぶ返事した。

馬が通つてからまだ時がたつていないのか、ゆげがたつて糞はまだやわらかかった。それはまわりの草のにおいと馬糞のにおいが混じって何ともいえないにおいがした。

義吉は、鼻をつまんで熊手を馬糞の中へそっと入れた。「だめやねえか。もつと力を入れてやらな。」

彦作はくさみを離して、義吉の手に自分の手を重ねて馬糞の中へ熊手を力いっぱい入れよう

とした。義吉は腰をひいて今にも逃げ出しそうなかっこうになった。そのかつこうがおかしいもので、彦作は笑い出した。

「にいちゃん、なんや。人にやらしておかしいんか。」

「ごめん、わるかった。おめえがあんまりへんなかつこうするもんやで、おかしゅうなつたんや。早う入れてみい。」

義吉は言われたように、力を入れて熊手を馬糞の中へ入れた。そして、くさみの中へいれようとしたが、うまくもち上がらなかった。(つづく)



かさまつ民話「昔むかし」

かさまつ民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。笠松中央公民館 松枝公民館 総合会館でご覧いただけます。